

平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 9 月成魚調査 速報

●実施状況

9 月 13 日の成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。調査地点 4 地点のうち、St. 22、St. 25 の底層は貧酸素状態で魚類は確認できなかった。これに対し、St. 35 は貧酸素状態が若干回復、St. 10 では貧酸素は見られず、魚類が確認された。しかし、5 月の調査と比較し個体数・種類数ともに減少した。調査当日は小潮で、満潮 10 時 10 分、干潮 15 時 13 分（東京都港湾局のデータ）であった。調査時間帯の波高は、0.1m から 0.2m。また、St. 10、St. 22、St. 25 は赤潮気味であった。

調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	14:55~15:35		12:50~14:40		11:50~12:20		10:10~11:10	
水深(m)	8.5		14.9		16.6		26.5	
天候	晴		晴		晴		晴	
気温	27.3		28.6		30.2		28.2	
風向/風速(m/s)	E/3.6		E/4.4		NE/0.9		NE/1.5	
波浪(m)	0.2		0.2		0.1		0.2	
水色	茶色		緑褐色		緑褐色		暗灰黄緑色	
透明度(m)	1.6		1.5		1.4		2.0	
観測層	上層	底層	上層	底層	上層	底層	上層	底層
水温(°C)	25.9	24.4	26.7	23.0	26.2	21.8	25.6	21.4
塩分	28.0	29.9	28.3	31.6	22.6	32.1	25.7	33.4
pH	8.7	8.5	8.7	8.2	8.6	8.0	8.3	8.1
DO(mg/L)	11.3	5.7	12.1	1.5	10.6	0.2	8.3	2.6
臭気	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し
備考	赤潮気味		赤潮気味 底層は貧酸素		赤潮気味 底層は貧酸素			

観測層：上層(0m)・底層(海底面-1m)

●主な出現種等(速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順注)	ツバクロエイ (r)	※マアジ (r)	漁獲無し	ハタタテヌメリ (r)
		※カタクチイワシ (r)		カワハギ (r)
魚類以外	イソギンチャク目 (c)	ホンビノスガイ (r)	マンハッタンボヤ (r)	マンハッタンボヤ (r)
	ホンビノスガイ (+)			
備考		3 回曳網を実施		2 回曳網を実施

※大量なクラゲに混じって捕獲されたため、参考記録として表記した。

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

St. 10 調査地点位置

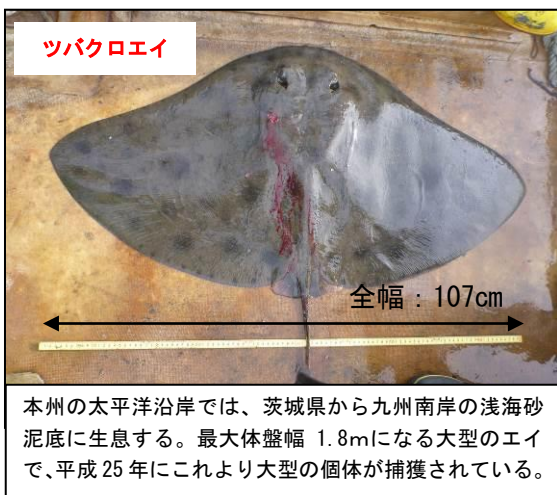
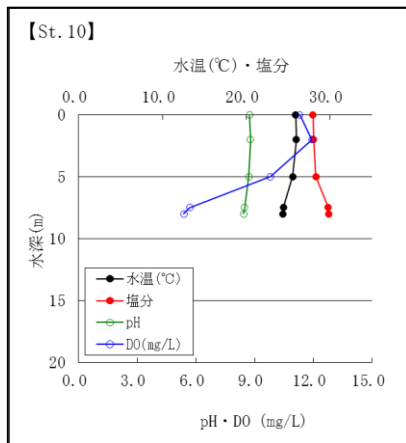


ディズニーランドの岸寄りに位置する。ツバクロエイのほか、ホンビノスガイ、イソギンチャク目等が確認された。付近は表層の溶存酸素量が多く、赤潮気味であった。一方、底層の酸素濃度は、5月調査時は貧酸素状態に近かったが、今回の調査では貧酸素は見られなかった。

採取試料

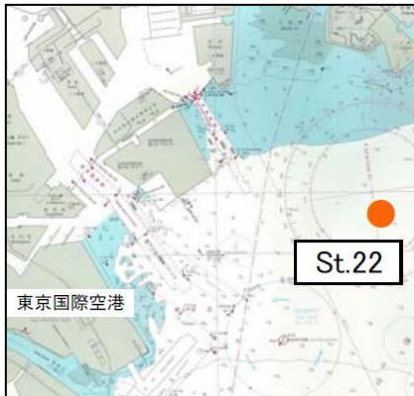


水質の状況

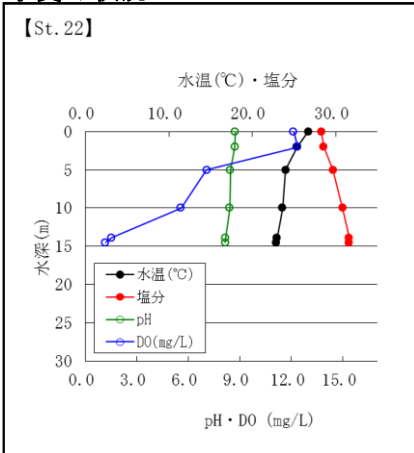


St. 22

調査地点位置



水質の状況



ディズニーランドの約3km沖合に位置する。当日は3回底曳を実施した。1回目および2回目は、大量なミズクラゲに混じってマアジとカタクチイワシが確認された。3回目では、ホンビノスガイのみで、魚類は確認できなかった。付近は表層の溶存酸素量が多く、赤潮気味であった。一方、底層は溶存酸素量が少なく5月調査時同様に貧酸素状態であった。

採取試料



※ クラゲの大量入網のためやり直しとなった、1回目、2回目の曳網時に捕獲されたもの。主に、表層・中層を利用する魚類であり、網の上げ下ろし時に入網した可能性もある。参考記録。

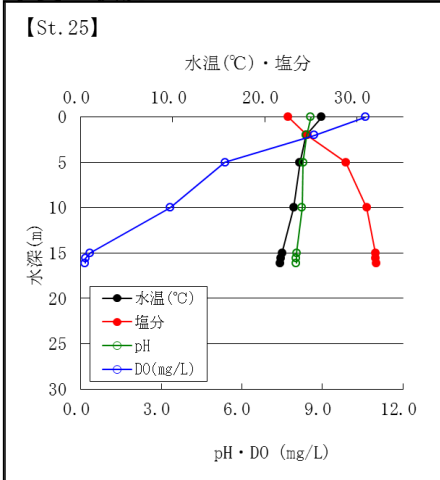
St. 25

調査地点位置



羽田空港の北東に位置する。生物はマンハッタンボヤのみで、魚類は確認できなかった。付近は表層の溶存酸素量が多く、赤潮気味であった。一方、底層は5月調査時よりも溶存酸素量が少なく、貧酸素状態であった。

水質の状況



採取試料



マンハッタンボヤ

名前の通り、北米東海岸原産の外来移入種。透明～黄褐色の被囊を持ち、全体に球形に近い。最大直径4cmほどになる。



アカガイの殻

内湾の砂泥底に生息するが、確認されたものは殻長2～3cmの殻のみであった。夏季の貧酸素水塊によりへい死したものと考えられる。

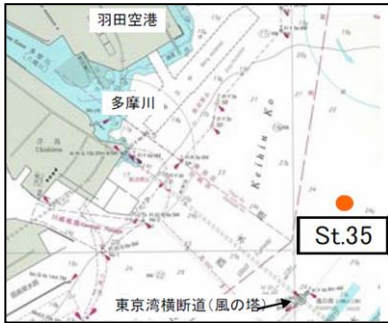


コウロエンカワヒバリガイの殻

1970年代後半に国内で発見された、オセアニア地方原産の移入種で、ムラサキイガイに似るが、殻のふくらみが強くしゃくれた形をしている。最大殻長4cm程度。

St. 35

調査地点位置



東京湾横断道の川崎人工島（風の塔）の北東に位置する。カワハギ、ハタタテヌメリのほか、マンハッタンボヤ等が確認された。下層は溶存酸素量が少なく、貧酸素状態に近かった。

採取試料



水質の状況

